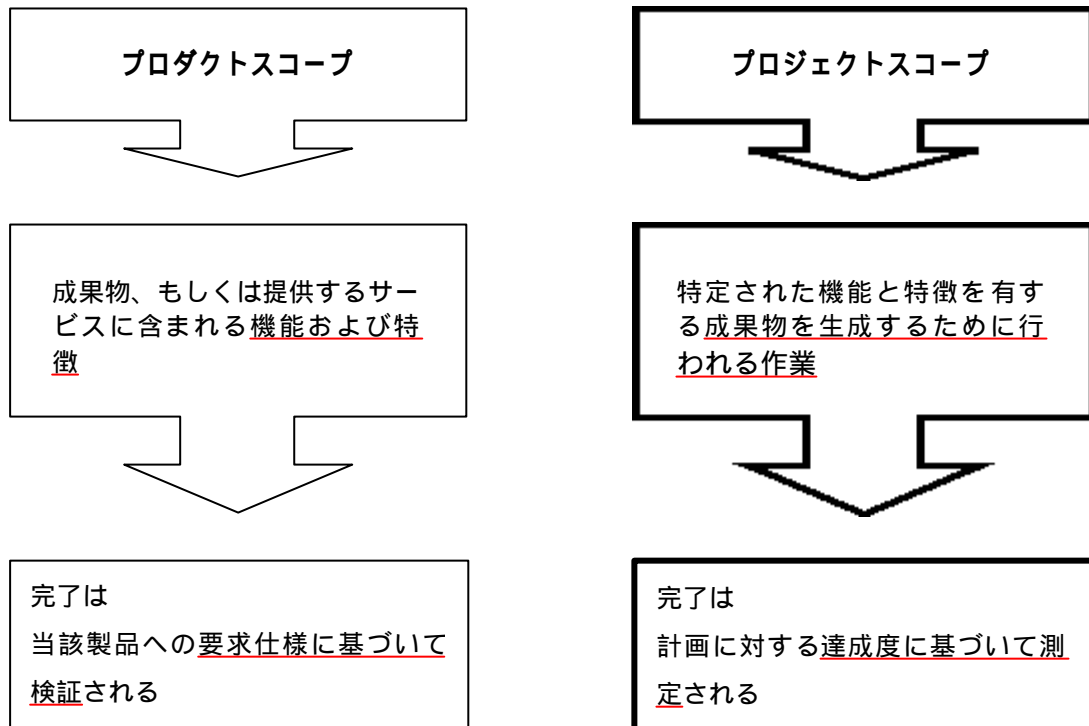


2. スコープマネジメント



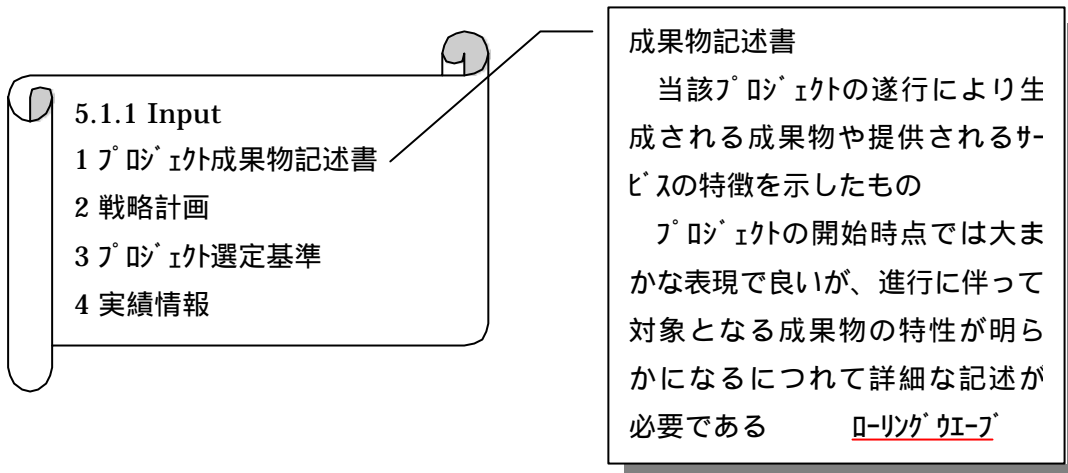
プロジェクトの立ち上げ

PMBOK5.1

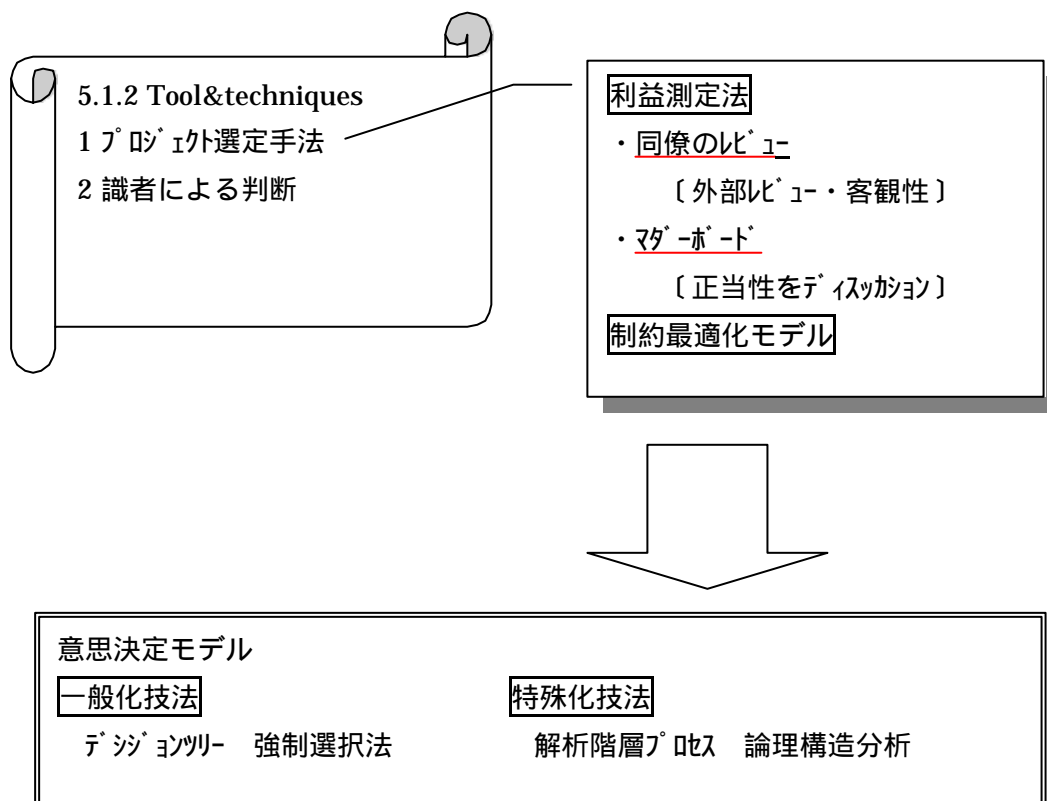
プロジェクトの立ち上げとは、遂行組織が新しいプロジェクト発足もしくは既存のプロジェクトが新たなフェーズに突入することを正式に認めるための一連のプロセスを指す

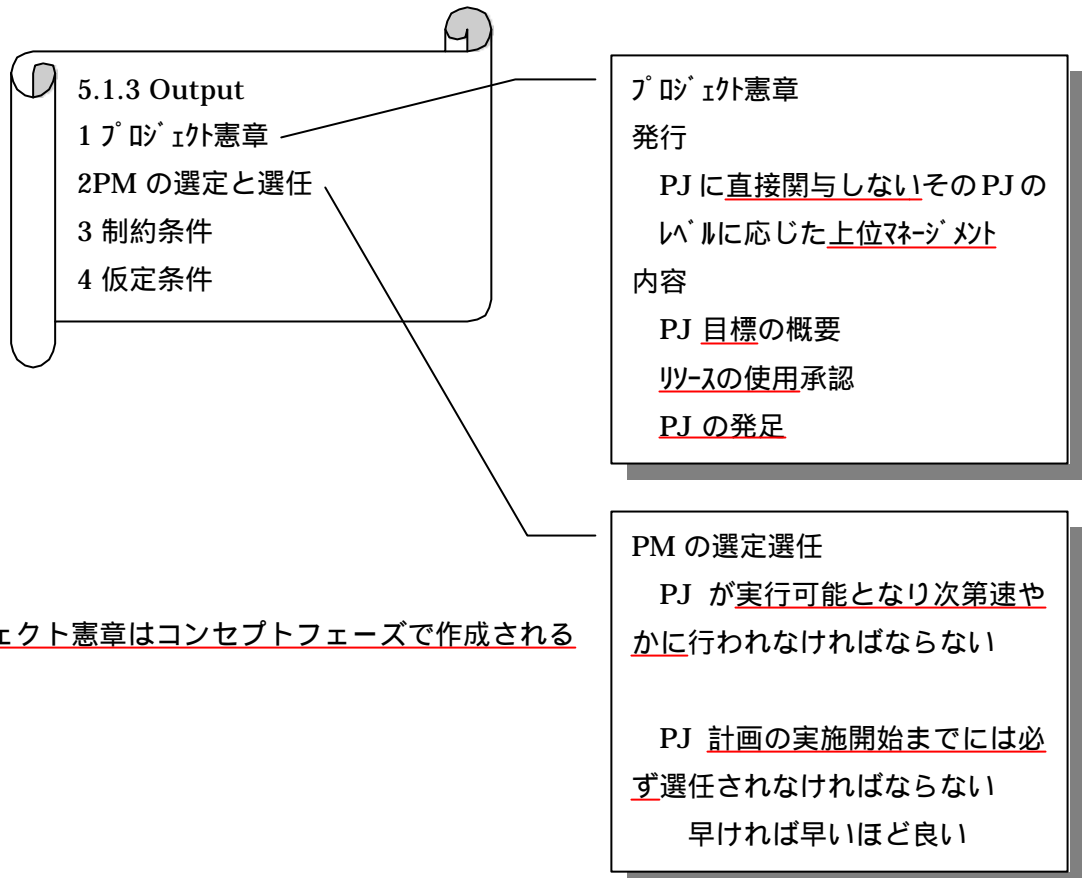
プロジェクトは通常次の5つの事由のうち1つもしくは複数が発生した時に立ち上げられる

市場要求 社内ニーズ 顧客要求 新技術への対応 法的要求



！ 初期の成果物記述書は通常購入者(Buyer)によって作成される





プロジェクト憲章は公式に
プロジェクトを発足
プロジェクトマネージャーにリソースの使用承認
プロジェクト目標概要を記述

スコープ計画

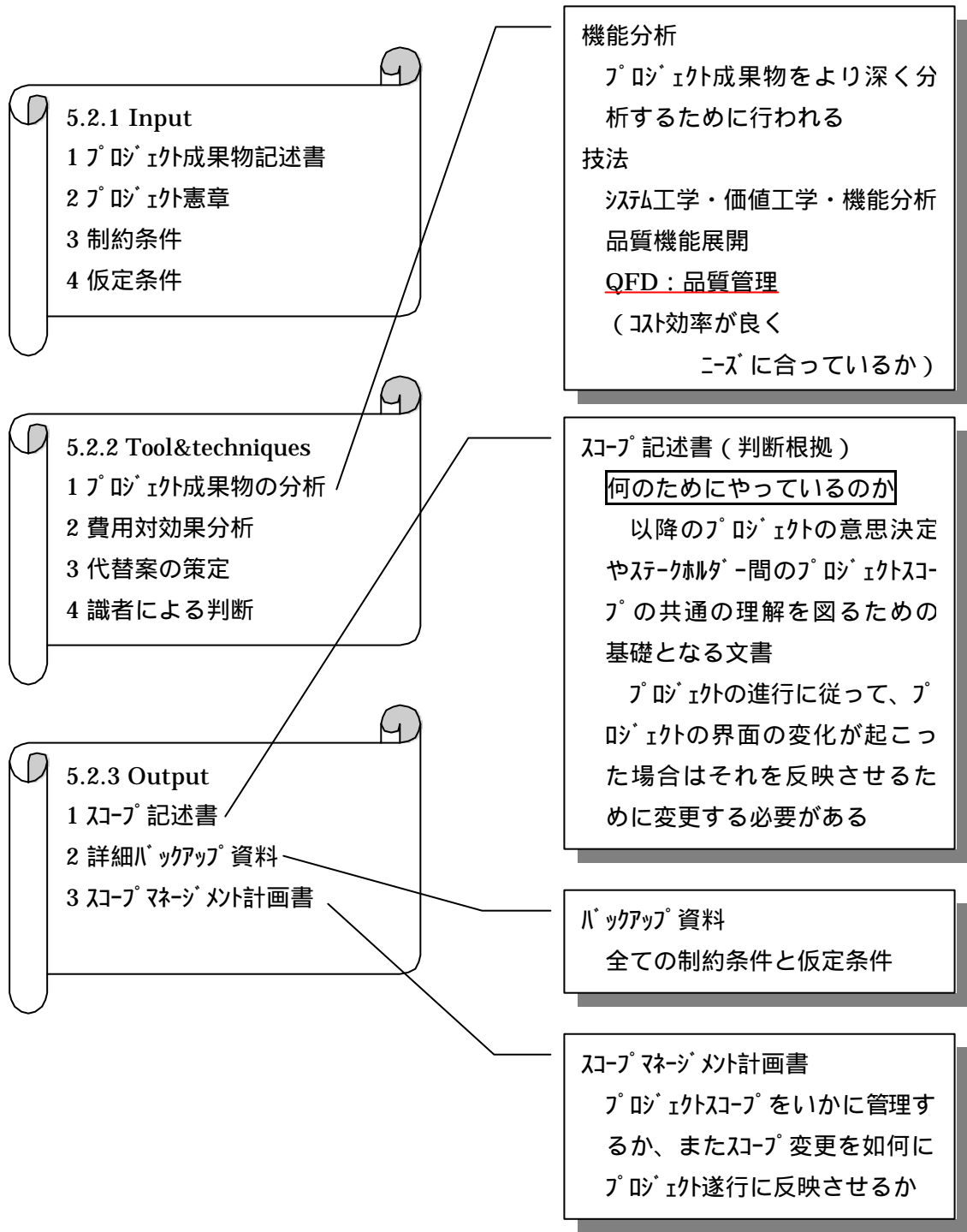
PMBOK5.2

スコープ計画とは、プロジェクト遂行過程におけるプロジェクトマネージャーの意思決定、特にプロジェクト、またはフェーズが成功裡に終了したかどうかを判断する事に対する基準となるスコープ記述書(Scope Statement)の作成に係わる一連の業務をいう。

範囲を定義

! 何をやり 何をやらないか

2.スコープ・マネジメント



スコープ記述書の記載事項

プロジェクトの正当性
プロジェクトにける将来の行動の是非を判断する際の基準を提供

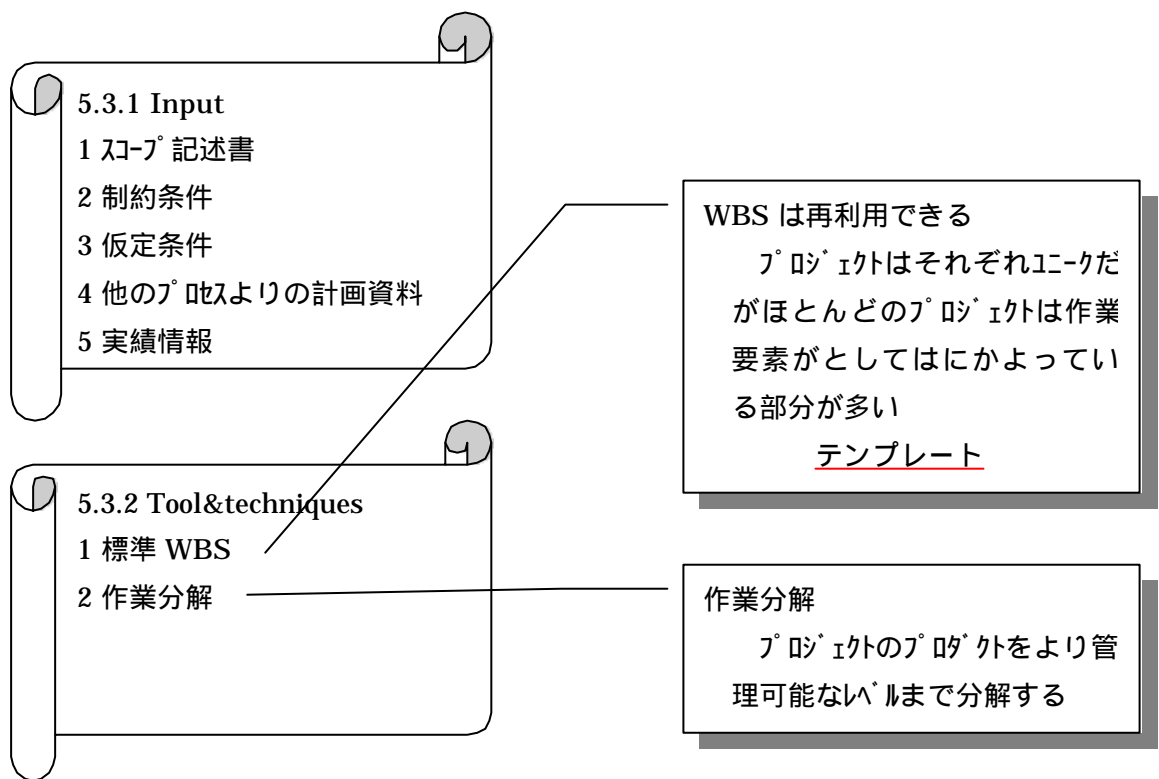
プロジェクトの成果物
当該プロジェクトの遂行により生成される物

プロジェクトのプロジェクト
プロジェクトの定量的な達成目標
コスト・スケジュール・品質の基準値
定量的でない目標の設定は大きなリスクを伴う(顧客満足等)

スコープ定義とは、スコープ記述書で述べられた3つの観点からより小さな管理可能なコンポーネントに分解することを指す。

- コスト、作業所要期間、資源所要量の正確な見積もりが可能であること
- 進捗度測定の基準線を定義すること
- 当該作業の責任と権限を明確化できること（責任体制の明確化）

！ 正しいスコープ定義は、プロジェクトの成功に最も重要なものである



作業分解の Step

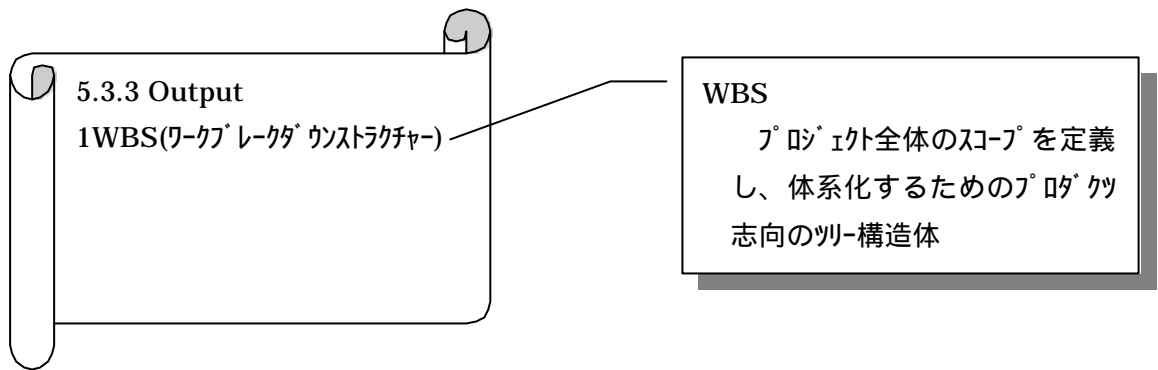
プロジェクトの基幹要素を識別する

分解された基幹要素のレベルで適切なコストおよび作業期間見積もりが出来るかを検証する

プロダクツの構成要素を識別する

作業分解の精度の検証を行う →

- ・ 下位のレベルの項目が必要十分か
- ・ 各作業は明確に定義されているか
- ・ 各要素は適切な日程目標と予算を付与することが出来るか



アカウントコード

WBSの各作業項目は一般的に一意的識別子を持つ。この識別子の集合体

ワークパッケージ

WBSの最下位レベルの作業要素

- ・ワークパッケージはさらにアクティビティ（作業）に分解される
- ・各作業要素の内容説明はしばしばWBSディクショナリーとして纏められる

！ 正ワークパッケージのサイズ = 80h(2W)程度

注 他の分野で使われるストラクチャーと混同しない

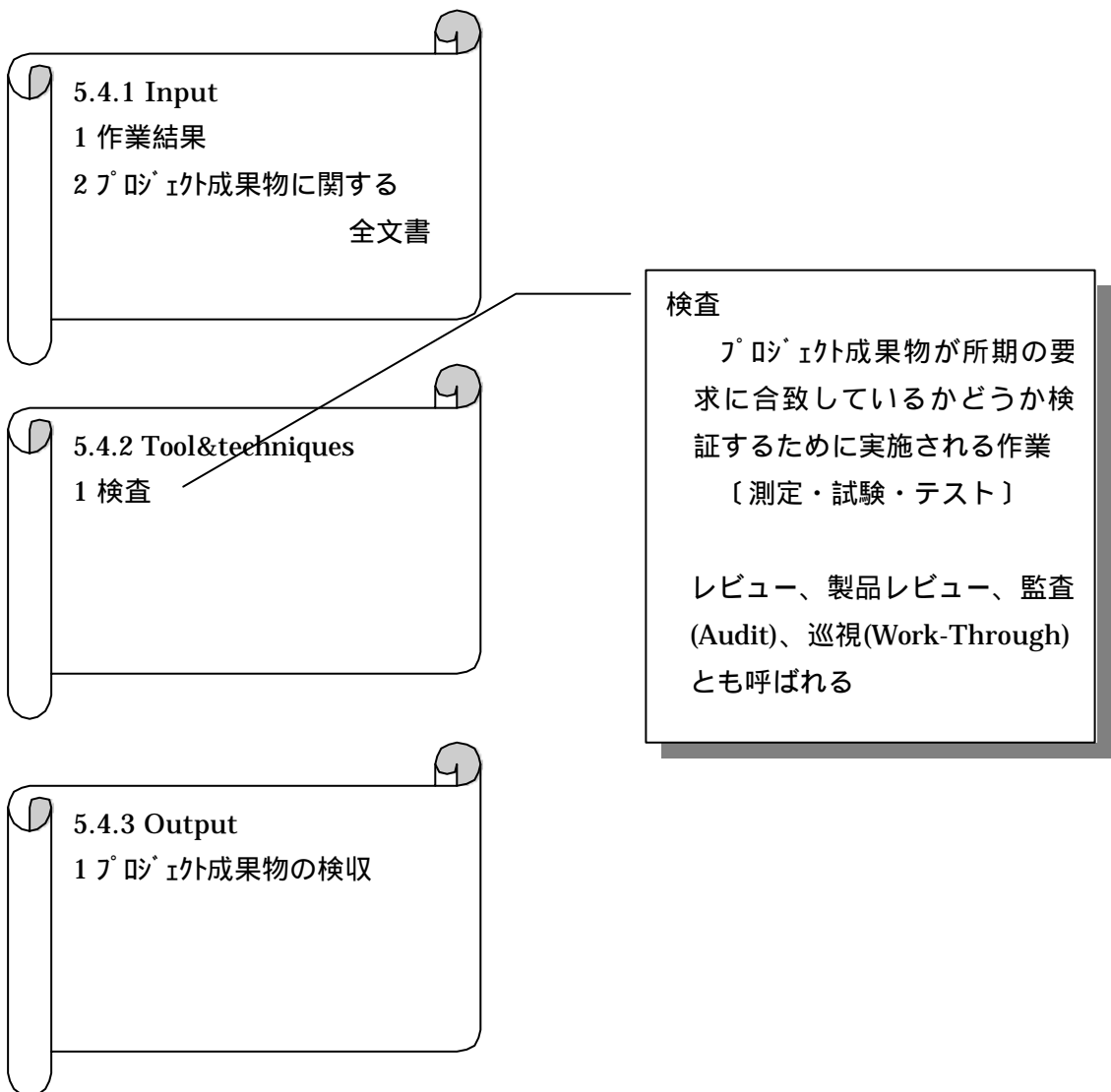
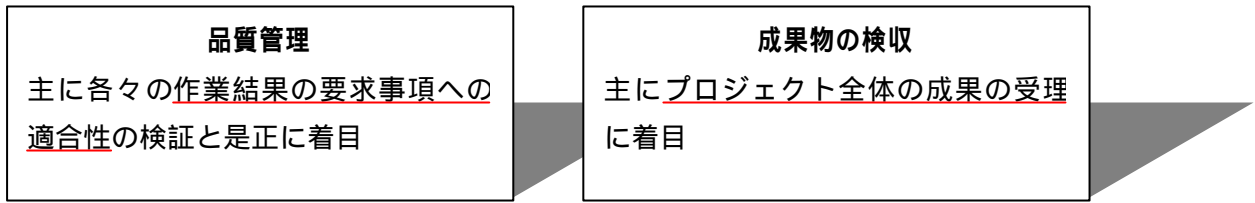
CWBS [契約]

納入者が購買者に提出する報告のレベルを定義したもの WBSより粗い

OBS [組織]

各作業要素が組織のどの部門に割り当てられるかを示す

プロジェクト成果物の検収とは、当該プロジェクトの遂行により生成された成果物が、プロジェクトの計画段階で定義されたスコープと合致したものとなっているか否かを検証する業務



スコープ変更管理とは

- (a) 当該スコープの変更が有用なものに限られるようにスコープの変更を引き起こす要因に作用を及ぼす行為
- (b) スコープ変更が発生した事の確認
- (c) 変更事象の管理

